

目的 夫の定年退職によって夫婦の生活がどのように変化し、生活の変化が夫婦関係にどのような影響を与えるかを明らかにする。

方法 (1)結婚満足度の測定方法----- Stinnett et al. が用いた Marital Need Satisfaction Scale から、日本の夫婦に適用可能な質問を11項目選り出し、新たに2項目を加えた尺度を用いた。回答は「はい」「どちらともいえない」「いいえ」を設定し、それぞれ、2点、1点、0点とし、13項目の回答の合計点を結婚満足度得点とした。満点は26点である。

(2)調査方法----- 「定年後夫婦の研究(1)」に同じ。

結果 (1)定年後の生活変化と夫婦の統合度----- 夫の定年を機に夫婦の伴侶性は増大し、情緒的にも緊密であり、定年退職後夫婦の統合度は高い。(2)結婚満足度得点----- ①夫婦とも非常に高い。特に愛情領域での得点が高く、コミュニケーション領域でやや低い。②1979年と1983年の得点差はあまりない。③夫と妻の得点の相関は極めて高い。(3)結婚満足度の規定要因----- ①基本的属性や階層要因に規定されることは少なく、定年後の生活変化や家族の情緒関係と深くかかわっている。②夫婦の伴侶性(一緒に過ごす時間・会話・外出・余暇活動)との相関は高く、伴侶性が高い夫婦ほど結婚満足度が高い。中でも、夫婦の会話が規定要因として強く働いている。③伴侶性と結婚満足度との相関は夫よりも妻の方が高い。④夫の職業生活からの離脱度との関係はみられない。⑤夫婦の情緒関係、及び、子との情緒関係が緊密であるほど結婚満足度が高い。